ふれあいJOTO

# 城東区

# ふれあいマップ

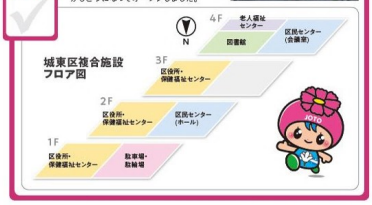
城東区マスコットキャラクター「コスモちゃん」

## 1 城東区複合施設

所在地 中央3丁目5番45号
地図番号 E-6

大きな窓で室内も明るいね！

平成28年3月に「城東区複合施設」は区役所・保健福祉センター、区民センター、図書館、老人福祉センターの5つの施設がひとつになってオープンしました。




## 城東区マスコットキャラクター 「コスモちゃん」

所在地 中央3丁目5番
地図番号 E-6

コスモちゃんです。仲良くしてね！

平成25年4月の城東区制70周年の際、区の魅力を発信し、誰からも親しまれる区の顔として、また区の活気につながるようなマスコットキャラクターを募集しました。
多数の応募作品の中から、区民の皆さまに参加された投票の結果、「コスモちゃん」が誕生しました。
頭と胸には、区の花「コスモス」と「モクレン」をかたどり、服の青は区内を流れる川や生き物し、城東区の魅力をイメージ豊かに表現しています。
「コスモちゃん」は、城東区広報誌「ふれあい城東」や区ホームページ、区内の各種イベントなどで活躍しますので、皆さまの応援をお願いいたします。

区役所北側の蓮生公園花壇内に、城東区マスコットキャラクターコスモちゃんを紹介した案内板があります。お散歩がてらに、ぜひ見に来てください！

## 城東区の花

平成2年の「国際花と緑の博覧会」を機会に、未永く区民の皆さまに親しまれ愛される「区の花」を定めようと、区内全校の小学生を始め広く募集を行ったところ、16,03通の応募がありました。その結果、昭和63年10月29日、ともに最多応募数により「モクレン」「コスモス」が区の花として制定されました。

## このマークが目印 わがまち自慢の景観 城東区「都市景観資源」とは？

城東区の都市景観資源の発掘のため、城東区ゆめ～まち～未来会議との連携により「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成24年3月30日に10件を都市景観資源に登録しました。

## 城東区の情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 総人口 | 167,972人 | 面積 | 8.38㎢ |
| 世帯数 | 81,602世帯 | 人口密度 | 20,044人/㎢ |

（人口・世帯数は令和3年2月1日現在推計）


編集・発行／大阪市城東区役所（令和3年3月）



撮影協力／大前 優一、小林 拡、髙越 光雄、中辻 良一、船岡 政治、髙島 浩平、水谷 泰夫


## 3 須佐之男尊神社（関目神社）

所在地 成育5丁目15番20号
地図番号 E-2

須佐之男尊（すさのおのみこと）を祭神とし、現在は関目神社と呼ばれています。創建年代は不明ですが、天正8年（1580）豊臣秀吉が大坂城築城の際、この地が大坂の鬼門にあたるということから鬼門鎮護の神として「思労門天王（びしゃもんてんのう）、牛頭天王（ごずてんのう）を勧請し、小祠を建立したのが起源といわれています。社殿は正徳年間（1711～1716）の台風により傾災し、明治18年（1885）の大水害により流出しましたが、明治21年（1888）に復興しました。現在の神殿は、昭和52年（1977）10月に建て直されたものです。

## 4 関目発祥之地の碑

所在地 成育5丁目15番20号
地図番号 E-2

関目神社の境内に、この碑があります。関目という地名は、古くは樋盆荘の荒代からあったもので、この地に見張所（目で見る関所）があったことから起こったといわれています。この地は、豊臣秀吉が大坂城の防備にとって重要と考え、後に京街道の一部となる関目から森小路の間10余町（1キロメートル余り）の道を伯に「七曲がり」といわれる屈折したものにし、敵兵の進軍の様子を眺めて、その軍容や兵数を観知できるようにしました。

## 5 明治天皇御駐蹕之跡碑

所在地 成育5丁目15番20号
地図番号 E-2

慶応4年（1868）、明治天皇が古市に来られ、このあたりにあった西井茶屋（成育5丁目2付近）で休憩されました。これを記念して大正2年（1913）6月に桑山員の撰文による「明治天皇御駐蹕之碑」が建立して建てられました。その後、石碑は蛇交苑の庭に移され、現在は関目神社の境内に保存されています。

## 6 榎並猿楽発祥の地 榎並城跡伝承地の碑

所在地 新森2丁目1番（榎並小学校門前）
地図番号 C-4

榎並猿楽は、鎌倉時代末期に丹波猿楽の新座として このあたりに座を構え、一時は本座をしのぐ勢いでした。しかし、応永31年（1424）には丹波猿楽の楽頭職を大和猿楽の観世に譲り渡し、榎並の地が必ずの乱の影響を受けたこともあり次第に衰退、天文年間には廃絶していたと思われます。

天文年間（1533）に三好政長が築いた榎並城は、小さいながら東成郡随一の要衝であったといわれています。天文17年（1548）、細川晴元の打倒をめぐり三好長慶は、城元に属していた三好政長と、その子孫綾を攻撃し翌年政長は戦死、城元の軍は敗れ榎並城も陥落しました。

## 7 榎並講

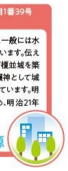
所在地 野江3丁目5番28号
地図番号 C-5

旧榎並村（現在の野江、関目、内代）の大峰山まいり有志により、昭和8年（1933）7月に建てられたものです。石像の不動明王、役行者は大変立派で眩厳があり、付近の人達により今も手厚く祀られています。現在、榎並講はありませんが、戦前は非常に盛んで、時には13歳になった男子が村人に連れられて初めて山行する行の中で、断崖絶壁に逆さまに宿づりになって行う"人生に対する誓い"は青年への通過儀式でもありました。

## 8 野江水神社

所在地 野江4丁目1番39号
地図番号 C-4

水波女大神（みずはのめのおおかみ）を祭神とし、一般には水神社・水神さま・水神宮・野江神社などと呼ばれています。伝えられるところによれば、天文2年（1533）三好政長が榎並城を築く際、ただでなり水害を被ったので、水火除難の守護神として城内に小さい祠を造営し、祀ったのが起源とされています。明治18年（1885）の大洪水で社殿が倒壊したため、明治21年（1888）に現在の社殿に再建されました。




都市景観資源


## 9 野江水流地蔵尊

所在地 野江4丁目1番39号
地図番号 C-4

大阪北部一帯を襲った、未曾有の大洪水時（明治18年）に、当地に流れ着いたとの謂われがあり、城東区民にとって忘れてはならない出来事の証人として、守り伝えなければならない お地蔵さんとされています。地元町会に守られ、地蔵盆などの行事は毎年欠かさず行われています。

都市景観資源


## 10 城北川日新製糖今福工場の碑

所在地 今福西6丁目8番
地図番号 C-6

日新製糖今福工場は、昭和27年（1952年）に新光製糖の今福工場として建設されましたが、平成25年（2013年）の日新製糖との経営統合により現名称に変更になりました。精製糖、氷砂糖、液糖の製造販売等を業種とする会社で、かつて"水の都"といわれた大阪において、地の利を活かしてCO2排出量の少ない、船（はしけ）輸送を操業開始時より続けています。

都市景観資源


## 11 大阪信愛学院

所在地 古市2丁目7番30号
地図番号 I-3

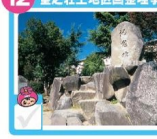
学院の歴史は明治17年（1884）に川口居留地に開校したことに始まります。現在地の城東区古市（当時は東成区千林町）に移転した時に建設されたのが本館で、今でも幼稚園から妊よまで続く同学院の中、中学校校舎の一部として使用されています（開設：昭和7年［1932］）。

また、聖堂は、第25回（2005年）大阪まちなみ賞（大規模非景観建築賞）大阪市長賞を受賞しており、御園の内陣を生かして聖堂の形状を配慮し、外壁をセットバックさせて距離と一体になった緑地と水盤を設け、周辺環境への積極的な配慮を行っています。

都市景観資源


## 12 鷺之荘土地区画整理事業完成の記念碑

所在地 古市2丁目6番
地図番号 I-4



昭和2年（1927）11月、鷺之荘土地区画整理組合が組成され、昭和4年（1929）3月に149.82haを対象に市街地造成に着手し、10年の歳月を費やし昭和14年（1939）に完成、住宅、工場用地、公園、道路、上下水道が整備されました。この事業を顕彰して、記念碑が古市中公園の一画に建てられました。

## 13 大阪大国技館跡

所在地 古市2丁目1番
地図番号 H-4

大阪大国技館は、現在の古市2丁目の中重様北東のリビエール関目付近に敷地面積6千坪、建築面積約3千坪、鉄筋コンクリート4階建ドーム式、収容人員2万5千人の国内最指の屋内スポーツ施設として昭和12年（1937）に竣工し、大国技館北側には相撲茶屋が建ち並んでいました。6月9日のこけら落としの大阪準本場所では、連日「満員御礼」の垂れ幕が下がり、梅田駅と最速駅から臨時バスが運行されたそうです。しかし、太平洋戦争の勃発で6年7回の準本場所を開催しただけで休館し、戦時中は倉庫に転用、戦後間もなく解体され、現在は往事を偲えるものは何も残っていません。

## 14 関目2丁目・4丁目の楠並木

所在地 関目2丁目9番、関目4丁目2-10番
地図番号 G-4

関目2丁目、4丁目の道路にある楠並木。100m強の「クスノキ並木」で、高さ約10m、枝振りも立派で手入れもよく行き届いた「緑との空間」となっています。夏の日差しが強い時期には、濃い緑陰に覆われ涼しさを感じることができ、貴重な緑陰空間です。


都市景観資源


## 15 空襲による遺難者供養の碑

所在地 新森8丁目（京橋駅前）
地図番号 E-8

終戦前日の昭和20年（1945）8月14日、アメリカの戦略爆撃機B29の編隊が飛来し、現在の中央区・都島区・東成区にある軍事施設及び大阪城周辺にあった大阪陸軍造兵廠に爆弾を投下しました。このとき、城東線（現在のJR環状線）は無差別に爆弾が投下され、乗降客をはじめ駅の近辺で二百名以上の犠牲者が犠牲になりました。このことの犠牲者の慰霊と平和を祈念して供養の碑が建てられました。その後、昭和59年（1984）8月に駅前牟尼人像（しゃかむにぶつぞう）と平和祈念像が建立されました。

## 16 野崎街道の家並み

所在地 蒲生4丁目1～3番
地図番号 E-8

野崎街道は、通称「野崎の観音さん」で知られる曹洞宗福泉山慈眼寺（大東市野崎）へ参詣するルートです。野崎参りは17世紀後半の延宝（1673～1681）・元禄（1688～1704）には最盛期に。明治の末頃まで大坂の町や近郷から賽ねて お参りをする人々で賑わいました。今でも田街道沿いに、古い伝統的な家屋が点在しており、かつての街道筋だった面影が残っています。

都市景観資源


## 17 蒲生行者講

所在地 蒲生4丁目10番24号
地図番号 E-8

蒲生行者講は、三百余年の間、蒲生村民の安全と繁栄を念じてきました。大峰山上の行場で厳しい山行を終えて下山してきた人に、体をまいてやもうと競ってなるというので、人々は、温に横たわってまいてやもったそうです。大峰山の麓（洞川）の宿場の元禄時代の宿帳に、この講の講まいりの記録が残されています。町の守護神として祠られている不動明王や役行者、弘法大師像などは、太正末期から昭和の初期に建てられ、近在の人たちにより手厚くお祭りされています。

## 18 若宮八幡大神宮

所在地 蒲生4丁目3番16号
地図番号 E-8

若宮八幡大神（わかみやはちまんおおかみ）≪仁徳天皇≫を祭神とする神社で、創建年月は定かではありません。社地は、昔から村内の小さな丘にあって、楠や樫などの大木がうっそうと茂り、昼なお暗い感があったと伝えられていますが、中でも楠の老大樹は、明治18年（1885）まで樹医されていました。境内にあるクスノキやムクノキなど11本の樹木が、平成9年10月31日大阪市保存樹林に指定されました。大坂冬の陣のとき、蒲川方の佐竹義宣が境内に陣を張り、戦勝祈願したといわれています。

## 19 三郷橋の丸木舟出土跡と祠

所在地 今福西1丁目14番
地図番号 F-8

今は埋め立てられている鯰江川に三郷橋（今福西1丁目）が架かっていました。大正6年（1917）5月、今福三郷橋関門樋の工事のとき、地下5.5mの川底から幅の大きくない丸木舟（長さ約13.5m、幅約1.9m）が発見されました。

この舟は、平安朝以前のものと鑑定され、古代にこの地方が一面内海で当や沼が点在していたことに裁行していたものと鑑定されます。その後、大阪城内に展示されていましたが、昭和20年（1945）の空襲で焼失しました。

## 20 巡航船の船着き場跡

所在地 今福南1丁目1番
地図番号 E-8

江戸時代から明治時代にかけて運屋川は、大坂の市街と北河内・中河内をつなぐ交通の要路で、今福は茨田地区の"浜"とともにその中継地として栄えたところです。大正の初期、巡航船は運屋川の天満橋から片町・福野橋・朝日橋を経て、新喜多大橋（今福南1丁目）まで往復し、一時は上流の衛南まで運行していたこともあります。昭和初期に市バスが運屋川北岸の片町・桜楽橋間に乗り入れるまで、大阪砲兵工廠に通勤する人や学校に通う学生たちなどの重要な交通手段として10年余り活躍しました。今福の船着場は、現在の新喜多大橋と新喜多橋の中ほどにありました。

## 21 室戸台風遭難学童の碑

所在地 今福南1丁目5番（美振寺内）
地図番号 F-8

昭和9年（1934）9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った台風は、わずか数時間の間に広範な区域にわたって大きな被害をもたらしました。なかでも、鯰江第二尋常小学校（現、聖賢小学校）と鯰江第三尋常小学校（現、今福小学校）では、合わせて教員をとなって多くの児童が死傷するという大変痛ましい出来事でした。このとき犠牲となった児童の慰霊のために、開限寺の境内にこの碑が建てられています。また、今福小学校にも昭和56年（創立50周年時）に慰霊碑が建てられました。

## 22 皇大神宮

所在地 今福南2丁目12番31号
地図番号 G-8

皇大神宮は、天照大御神（あまてらすおおみかみ）を祭神とし、神宮祭祀と称して広く崇敬され栄えてきた由緒ある神社です。現在の社殿は、寛保2年（1742）、元禄13年（1842）、明治13年（1880）に改修され、昭和7年（1932）に大坂城の設計を手がけた古川重春氏の設計により改築された、桃山様式の風雅な造立の社殿です。平安時代末期に源運国今福村が開発された時、同地に天照大御神をお祀りしたのが始まりと伝えられています。

都市景観資源


## 23 今福の道標

所在地 今福南2丁目12番31号（皇大神宮内）
地図番号 G-8

天保3年（1832）3月に世話方6名により建立されました。元は、古道街道（野崎街道）の四辻（今福南1丁目あたり）と呼ばれた交差点の東南角に建っていましたので、野崎詣等交通の要路であったことから道標が建てられたものと考えられます。また、安政6年（1859）3月に今福村の大峰山登山人等の世話人によって上部に常夜灯が加えられました。道標には、「左り大坂道、右へのさきなないせ道、富村山上講」と刻まれています。

## 24 旧野崎道の跡（石碑）

所在地 今福南2丁目1番
地図番号 G-8

野崎街道は、通称「野崎の観音さん」で知られる曹洞宗福泉山慈眼寺（そうとうしゅうふくいずみさんじげんじ）（大東市野崎）へ参詣するルートです。当時、大坂から今福・蒲生を経ての野崎参りは、農形をつて駐江川や寝屋川を中心の渡しを使って観音様まで歩いて行く行き方、復屋川の堤をそのてくてく歩いていくかのどちらかでした。この野崎道が出会う三叉路の今福小学校の西南角に石碑が建っています。

## 25 新喜多新田会所跡

所在地 新喜多東1丁目8番40号付近
地図番号 F-8

新喜多新田を経営するための中心となる会所の建物があったところです。もともとこのあたりに巨大寝川が流れていましたが、宝永元年（1704）に付け替え工事が行われ、船底よりかさまず2百ℓ向かい、大坂湾に流れ込む堤を の姿になりました。巨大寝川の下流を淡淵新十郎、清池喜七、今木屋多兵衛の三人が開墾し、その名前の一字ずつを取って新喜多新田と名づけられました。

## 26 鳴野古戦場碑

所在地 鴫野東3丁目16番41号（城東小学校内）
地図番号 F-10



大坂冬の陣で有名な鴫野・今福の会戦は、この付近一帯を主戦場としました。当時このあたりは、旧大和川の支流が分流していて、湿地帯や水田が多く戦闘には不向きでした。慶長19年（1614）11月26日未明、この辺りを防御していた大坂方の軍勢を復川方の佐竹義宣、秋田実季、蒲生郷喜らが攻撃。戦いは双方の銃撃戦となり、合間に場防上での激しい遭遇戦があり、29日まで一進一退を繰り返しました。このとき、攻撃に来た木村重成や後藤基次（又兵衛）の軍勢との乱戦の末、徳川方がこれを破ったと伝えられています。

## 27 八剱神社

所在地 鴫野東3丁目31番8号
地図番号 F-10



応永3年（1396）の創祀と伝えられ、八剱大明神・武速須佐雄大神（たけはやすさのおのおおかみ）・開象女大神（みづはのめのおおかみ）を祭神としています。室屋年間に京都下鴨の神主が記録した社記によれば、応永のはじめのある夜、鴫野村住民の夢の中に一人の老翁が現れ、「吾は熱田の神なり、縁を此の地に勧れんと欲す、明日汝等此で来て吾を迎川の辺に迎え上とのお告げがあったので、翌日、村民十数人も呼んで河辺に来ると小松が陸に上がって行きたそうです。その姿は大変強々としていて、一同どこに従って行くと、小松は川を越えて当麻に入り、その屋わったところに小さな祠を建てて祀ったとされています。当社は、鴫野村の鎮地神が保存され、近世の研究史料となっています。

## 28 大日寺と宝篋印塔

所在地 鴫野東3丁目31番17号
地図番号 F-10



弘仁年間（810～824）に弘法大師が創建されたと伝えられています。ご本尊の大日如来は、「摂陽群談」第12巻にも弘法大師手造りの像と記載されています。本堂には大日如来のほか、如意輪観音（にょいりんかんのん）、不動明王（ふどうみょうおう）や歓喜如来（しゃかによらい）、阿弥陀如来（あみだにょらい）などの優れた仏像が安置されています。

本堂前には、小ぶりながらその形から鎌倉時代のものではないかといわれる暗灰色の宝篋印塔があります。元宝篋印塔とは、経文を納める塔のことで、中国の北宋時代初期に造られるようになりました。我が国では平安時代末から、主に石造りで供養塔、墓碑塔として建てられました。

## 29 八坂神社

所在地 天王田10番19号
地図番号 G-10



素盞嗚尊（すさのおのみこと）をお祀りしています。大正2年（1913）10月14日に永田村の水神社（現在永田4丁目運乗寺の一部）とともに八阪神社に合祀されますまで、天王田の氏神様でした。合祀されたとき神社の跡地は長い間荒れ放題でしたが、昭和55年（1980）に天王田地区の人々の強い懇願と協力により元の場所に再建されました。境内にはいちょうの大木があり、その横にお稲荷さん（稲荷大明神）が祀られています。

## 30 中浜下水処理場の桜

所在地 中浜1丁目17番
地図番号 E-11






中浜下水処理場は、大阪市で3番目の下水処理場として昭和35年（1960）に通水しました。場内に整備された「中浜せせらぎの里」周辺には、約300本の桜並木が毎年春に見事な桜のトンネルを作り、多くの人々の目を楽しませています。


都市景観資源


## 31 大阪砲兵工廠跡の石碑

所在地 森之宮1丁目
地図番号 C-13



現在の大阪城公園、大阪ビジネスパーク、JR森之宮団地一帯は、戦時中まで大阪陸軍造兵廠でした。このあたりには巨大な兵器工場が建ち並び、大勢の人が働いていましたが、終戦前日の昭和20年（1945）8月14日の空襲で、完全に破壊されてしまいました。

その後、この一帯には多くの住宅や施設が建ち、当時のの面影を知るよしもありませんが、この石碑はJR森之宮団地内に建立されています。

## 32 白山神社

所在地 中浜2丁目3番15号
地図番号 D-12



白山神社は、菊理媛神（くくりひめのかみ）を祭神としています。創建年月は不詳ですが、明治5年（1872）までは、白山権現と称していました。応永（15世紀初頭）の頃までは中浜・鴫野・森の諸村の氏神でした。天正4年（1576）織田信長が石山本願寺を攻撃した時、社殿を焼失しましたが、慶長8年（1603）豊臣秀頼により再建されました。しかし、同19年（1614）大坂冬の陣による兵火で再び焼失しました。元和3年（1617）再建されますが、その後も幾度かの改築・修理が加えられ現在に至っています。また、神社の境内にある「イチョウ」の木は、大阪府の天然記念物に指定されています。


都市景観資源


## 33 東本福寺神社

所在地 中浜1丁目18番11号
地図番号 E-13



学課之都魂大神（うかのみたまのおおかみ）を祭神とし、衣食住の神様、農業繁盛の神様として知られています。天正4年（1576）の兵乱で神殿を焼失しましたが、慶長8年（1603）豊臣秀頼により再建されました。しかし、元和元年（1615）の大坂夏の陣で再び焼失し、その後、江戸時代に大坂城代阿部備中守正次が再建しましたが、明治18年の大洪水により流失、有志の協力により祠を建てたものの荒廃し、昭和3年に境内地を拡張して神殿を再建したものの荒廃し、昭和3年に境内地を拡張して神殿を再建したものの荒廃し、昭和3年に境内地を拡張して神殿を再建した